

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2572200018
法人名	社会福祉法人 高島市社会福祉協議会 マキノ支所
事業所名	グループホーム「はあとふるマキノ」
訪問調査日	平成 19年 5月 22日
評価確定日	平成 19年 6月 12日
評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2572200018
法人名	社会福祉法人 高島市社会福祉協議会 マキノ支所
事業所名	グループ・ホーム はあとふるマキノ
所在地	滋賀県高島市マキノ町新保1095番地 (電話) 0740-27-1700

評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2F		
訪問調査日	平成19年5月22日	評価確定日	平成19年6月12日

【情報提供票より】(19年 5月 2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.8

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 □、 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	200 円	おやつ	円
	または1日当たり 700 円(おやつ代含む)			

(4) 利用者の概要(5月22日現在)

利用者人数	8 名	男性	名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	74 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 マキノ病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高島市社会福祉協議会が運営するこのグループ・ホームは、緑豊かで理想的な環境の中に他の福祉関連機関と併設されている。それゆえそれら施設との連携もうまく行われており、特にデイ・サービス部門との連携は利用者の利用開始前後の順応に大変効果的である。また利用者の生活情報の共有も介護の現場で大いに役立っている。利用者の従前の生活経験を活かせる施設も造られており、利用者の人格を尊重した介護を行う職員との共同生活を生き生きと楽しんでいるのがその表情に表れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘のあった介護計画の見直し期間の件、および個人個人の栄養状態の把握に関する件は今回においても改善されていない。早急に改善されることを期待する。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に当たっては、各個人から気づいた点を記入してもらいその後管理者がまとめて、もう一度確認を取る手法でまとめられた。今後は全員参加のミーティングなどを通じて、自己評価に対する取り組みを更に強化して行って欲しい。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は未だに未開催である。新任の支所長の下、メンバーを早急に選出され運営推進委員会を立ち上げていただき地域と支えあう協力体制を確立されることを期待する。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への連絡はホームの便りで知らせている。家族会を結成され運営に対する家族の意見を述べる機会を作ると共に介護に対する家族の関心と協力を得る取り組みを期待したい。苦情処理の窓口は設けられているが、もっと気軽に意見を述べられるように苦情処理ポストなどの設置を検討され苦情処理体制の確立を期待する。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	道路の清掃なども実施し地域の中に溶け込もうとしている。また民生委員などの訪問もあり、ふれあいを深めている。自治会や老人会との交流を促進され、一層地域の関心と協力を得るような取り組みを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は簡潔な表現で、地域住民と共に生きる事を基本に据えて、誰にもわかりやすく作られている。		地域住民と共に生きているということをさらに徹底して積極的に取り組んでほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の標語は所内の複数の場所に掲げられており職員の目に付きやすくしているが唱和などの方法は取られていない。	○	職員の異動が比較的多くあり、新しい人の理解を得る為にも新人教育の場や、朝礼の場などの機会を設け理念の職員への徹底を図ってもらいたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の夏祭りやその他の行事には参加しているが場所的に離れた所に立地している為頻繁には行なわれていない。 ・自治会、老人会には未加入である。	○	・地域の人に施設の理解、協力を得る為に自治会、老人会に職員と一緒に顔出しされ、出来れば入会して地域活動に参加されることを望みたい。 ・老人会などで認知症の勉強会講師を務める等理解者の環を広めるような工夫と努力をしてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価の作成に当たっては管理者、職員双方が参画して作成している。 ・意義は理解しそれを反映することに努めているが、改善計画シートを使用した取組にみまで至っていない。		・外部評価を全職員で生かす取り組みとその記録を是非残してほしい。
		○運営推進会議を活かした取り組み			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は一度も開催されていない。またメンバーも決定されていない状態である。	○	・運営推進会議を早急に定例化され、そこから出された意見やアイデアを活用してサービスの向上に生かしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・運営主体が社会福祉協議会であり、市の職員との交流も良好である。		・市職員の認知症理解を得る研修受け入れの場を提供し、こうした活動を地域に広めてゆく取り組みを実施していただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月送付されている便りで各個人の状況は報告されている。 ・金銭管理及び報告については金銭使用の都度領収書と共に家族に報告されている。 ・個人別の介護日誌により家族は日々の状況を閲覧することができる。		・家族の閲覧に頼るのではなく介護日誌のコピーなどを送付することを検討願いたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会はない。従って組織だって運営に関する意見を述べる機会はない。 ・苦情処理の窓口としては管理者が担当している。 ・苦情処理に関するマニュアルは、整備されている。 ・現在のところでは、苦情処理の申し立てはない。	○	・家族会の設立を望みたい。定期的に家族会との会合を持ち家族の希望を聞くと共に家族への要望も積極的に行う機会としていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・高島市社会福祉協議会が運営主体であるため、定期異動についてはある程度やむを得ない事実である。	○	・職員異動の影響は、利用者にとってかなり大きいと思われるので、なじみの関係作りに更に配慮されて、計画的に且つ実施の際には、余裕を持った引き継ぎ手順の配慮や引継ぎマニュアルの整備を強く望みたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・社会福祉協議会全体の年度研修計画は、毎年作成され実施されている。 ・グループホーム独自の研修計画は、立てられていない。	○	・認知症介護職員育成の為、グループホーム独自の年間研修計画を作成し、実施してほしい。 県社協主催の認知症介護研修シリーズの計画的研修受講にも取り組まれない。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市内にある2ヶ所の同業者との交流は行われていない。	○	・市内の同業者との意見交換の場を設けるよう、リーダーシップを取った働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・デイ・サービスからの利用者が多いため比較的スムーズに行っているようである。 ・利用開始から馴染むまで約3ヶ月かけてゆっくと融け込むよう心がけておりまた体験入所も受け付けている。		・これからも新規の利用者にはデイ・サービスの利用あるいはショート・ステイなどを利用して本人が納得して入所するようにしていただきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は利用者のレベルにあわせて懸命にサポートしており会話の中にも尊敬の念を持って接しているのが見られ良好な関係を築いている。 ・食事の支度などは3人の利用者が積極的にかわり双方の協力がほほえましくさえ感じた。		・現在の関係を維持されるよう望む。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・デイ・サービスの利用経験者がほとんどの為そちらの部門からの情報もあるので良く把握されている。 ・本人の過去の経験をよく把握し希望をかなえるよう行っている。		・今後とも本人の希望の把握に努められその実現に力を貸すケアを継続されることを望む。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・介護計画の作成に当たっては家族の参加はみられない。作成後家族に報告承認を得ている。家族の意見を入れる余地は残されているものの現実的には施設側のみで作成している。	○	・介護計画の作成に当たっては、家族の参加を得つつ介護計画の作成を望みたい。
		○現状に即した介護計画の見直し	・介護計画の作成時期は介護保険認定時に合わせて		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画の作成時期は介護保険認定時に合わせて行っている。 ・その間における定期的な見直しは行っていない。 ・状況の変化による見直しは行われているが、定期的な見直しとはいえない。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画の見直し期間は少なくとも3ヶ月間にしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・デイ・サービス部門が同じ施設内にあるのでそこで行われる行事に参加するなど、また利用者の情報の提供あるいは異動した職員の協力など充分その機能を生かしている。 ・医療連携加算の制度の導入も検討されている。		・今後関連部門との協議を続けていっていただきたい。 ・情報の共有化に取り組む記録で残すよう希望したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・現状では通院介護時は家族が行っていることもあり隣接のマキノ病院に全面的に依存している。		・現状では致し方ないかもしれないが今後の課題として検討されたい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化した利用者が他の施設に移って貰ったケースがある。 ・重度化した特定の利用者については、関係者との話し合いがなされている。	○	・出来るだけ早い段階から、すべての利用者・家族、医療関係者と基本的な考え方について十分な協議を開始されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・個人のプライバシーを守るための取り組みについては職員は充分認識し配慮している。 ・記録簿等はロッカーに保管されている。		・更なる徹底を期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・訪問した日は天気がよかったので朝から利用者の希望により緑に囲まれた施設周辺に散歩に出かけられていた。 ・利用者の意見を重視し其のつど柔軟に対応している。利用者の意識が比較的明瞭なため希望が伝わりやすい。		・加齢とともに利用者の意識の低下が起こってきた場合、その受け止め方に工夫を加えて頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 日々の献立はその日の食材を見て職員、利用者が相談をして決めている。 利用者は自分の得意分野に積極的に参加しむしろ職員のほうが補助に回っているような印象を受けた。 職員と一緒に食事をするが弁当持参であった。 		<ul style="list-style-type: none"> 大変ユニークな方法ではあるが反面栄養摂取の問題点もあると思われるので栄養士のアドバイスを受ける体制をとるよう望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 入浴は週3回程度で時間は午後からになっている。本人の希望で時間は決めている。 入浴時の介護は必ず付いている。 		<ul style="list-style-type: none"> 本人の希望を中心に今後も柔軟な対応を継続して欲しい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 農家の出身者が多いので農作業や草引きなど得意な分野を楽しんでいる。 		<ul style="list-style-type: none"> これからも、個人個人の能力を引き出すよう希望したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の希望に沿って外出しているが、買い物等は地域的な問題もあり、十分とは言えない状況にある。 		<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの方々の積極的な援助を得るよう働きかけをしてもっと気軽に利用者が外出できるようにして欲しい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 管理者、職員とも鍵をかけずにケアをしている。 玄関のドアは自動扉であるが安全面もあり手動で開閉できるようにしてあった。 		<ul style="list-style-type: none"> 現在の姿勢を継続して行って欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> 災害時のマニュアルはない。 避難訓練は年1回施設全体で行っている。しかし利用者が訓練を理解できずパニック状態になり後の処置が大変とのことである。 消防署には認知症患者がいることを通告している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 災害時のマニュアルは是非作成していただきたい。 少なくとも職員だけの訓練でももっと実施して利用者の安全の確保に取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・各人の日常の状況は充分把握されて支援されており、介護記録表に毎日食事量や水分摂取量を記入・管理されている。		・加齢とともに状況が刻々と変化するのでその対応のためにも栄養や水分摂取量などについて定期的なチェックが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共同空間は充分配慮されている。また利用者の要望を取り入れて食堂と居間を同じスペースにするなど柔軟な運用をおこなっている。 ・明るい共同空間には利用者の手作りの作品が飾られており家庭的な雰囲気が作られている。 ・外には利用者が育てた花が咲いている花壇あった。		・今後もこの姿勢を維持発展させて行って欲しい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・和室、洋室とも明るくまた本人の家具等も持ち込まれており各人が自分に合った部屋作りができるようになっている。 ・空調も完備され居心地のよさそうな居室である。		・今後とも更なる改良を期待したい。